

令和 3（2021）年度 資源評価調査報告書

種名	アラ	対象水域	日本海北部（青森県～石川県）
都道府県名	青森県、秋田県、山形県、新潟県、富山県、石川県	担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部

1. 調査の概要

青森県（日本海側～陸奥湾の主要21港）、秋田県、山形県、新潟県（主要地区のみ）、富山県、石川県（主要10港）における月別漁業種類別水揚量を集計し、主産地、主漁期等の漁獲状況を把握した。

2. 漁業の概要

対象海域における2020年の漁獲量は79トンであった。この内、新潟県の漁獲量が32トンと最も多く、全体の41%を占める。漁獲量は次いで石川県（16トン）と秋田県（15トン）が多い。青森県から新潟県では、底びき網による漁獲がいずれの月（底びき網禁漁期の7月、8月を除く）でも主体となっており、全体としては6月と9月～11月に多く漁獲されている（図2）。石川県においては5月以降10月にかけて多く漁獲されるが（図3）、底びき網による漁獲の割合は比較的低く、刺網と釣・延縄による漁獲が主体となっている（図2、3）。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：北海道～九州南岸の太平洋沿岸、青森県～九州南岸の日本海・東シナ海沿岸、瀬戸内海、東シナ海大陸棚縁辺～斜面域；朝鮮半島南岸、濟州島、台湾、スル海に分布し、主に貝殻まじりの砂底や岩礁域に生息する（瀬能 2013）。2016～2020年の各7月に実施された日本海北部底魚資源調査では、秋田県～新潟県沿岸の水深100～120mで全長14cm前後の幼魚が採集されている（水産資源研究所 未発表）。
- (2) 年齢・成長：本種の年齢と成長に関する知見は得られていない。東シナ海では約1.0mに達する個体が確認されている（山田ら 2007）。
- (3) 成熟・産卵：本海域における本種の成熟と産卵は不明である。他海域の報告として、東シナ海では、仔魚の出現状況から8～9月頃大陸棚縁辺での産卵が推察されている（山田ら 2007）。
- (4) 被捕食関係：2021年に着手した新潟県沖の漁獲物（全長16～42cm）を対象とした精密測定・胃内容物観察では、コシオリエビ類とエビジャコ類およびシャコ類が高い頻度で出現している（水産資源研究所 未発表）。また、胃内容物として魚類ではニギス幼魚が確認された。被食については不明である。

4. 資源状態

日本海北部で漁獲される本種の資源動向や資源水準を判断するための長期的な漁獲量や資源量指標値は現時点では得られていない。

5. 資源回復などに関するコメント

本種はいずれの漁業種類でも必ずしも漁獲主対象ではないため、過度な漁獲圧はかかりにくいと推察される。資源量指標値が得られていないため、今後、標本船調査により収集している漁獲情報に基づき、各地先の資源動向をモニタリングする手法の検討が不可欠である。また、生物学的特性や資源構造には不明な点が多く、さらなる情報収集が必要である。

引用文献

瀬能宏 (2013) ハタ科. pp. 757-802. In : 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野. xlix+2428 pp.

山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次 (2007) アラ. pp. 561-563. 水産総合研究センター叢書, 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 秦野. 1262 pp.

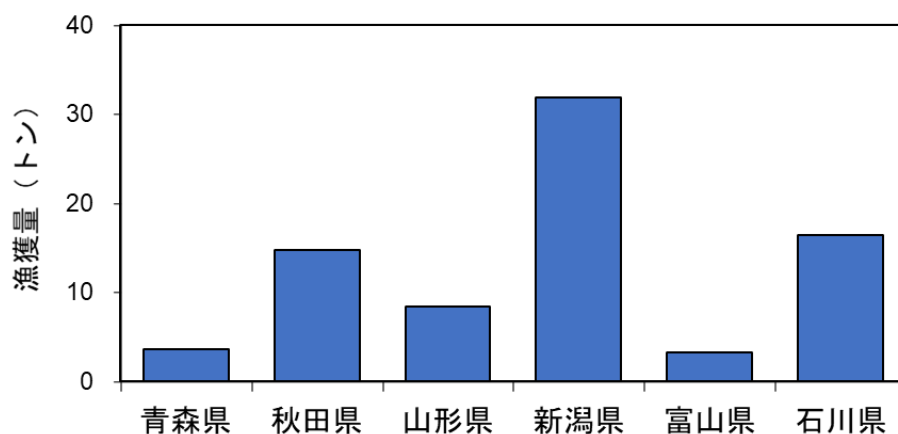


図1. 2020年の各県におけるアラの漁獲量

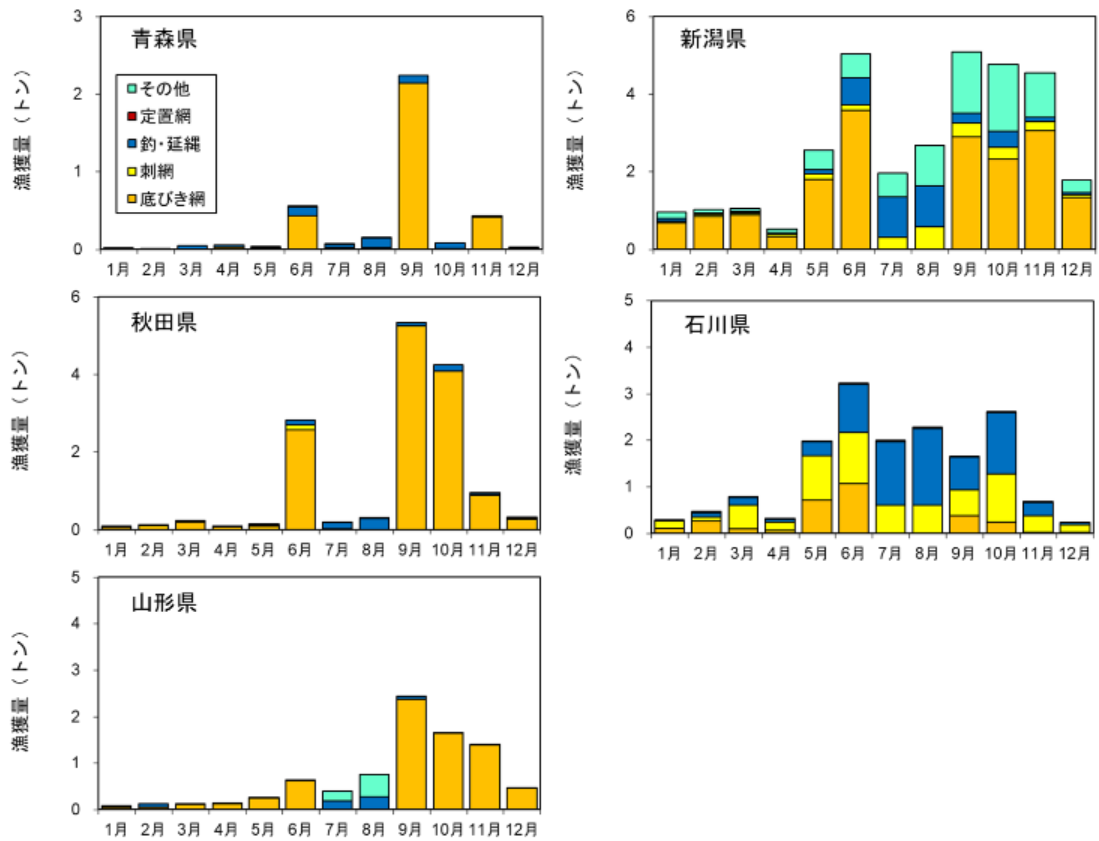


図2. 2020年の各県におけるアラの月別・漁業種類別漁獲量（富山県を除く）

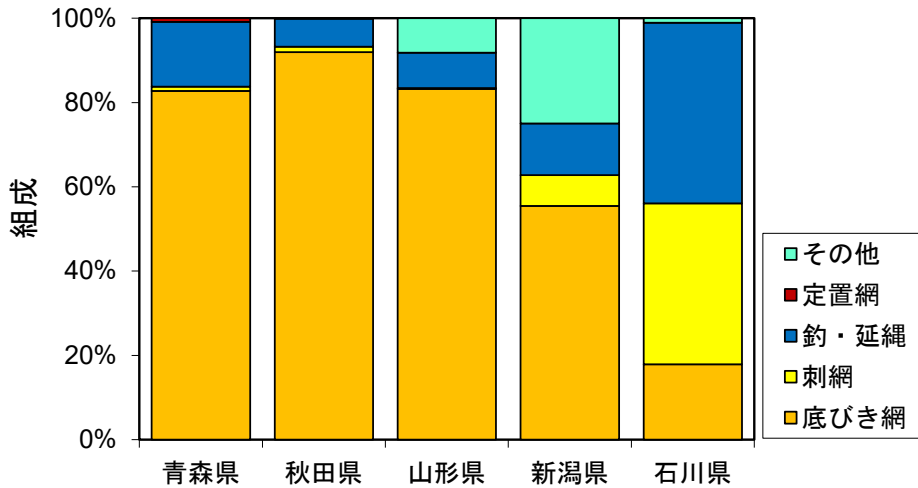


図3. 2020年の日本海北部におけるアラの県別・漁業種類別割合（富山県を除く）